

菅谷規矩雄
死をめぐる
トリロジー



思潮社

死をめぐるトリロジイ

著者——菅谷規矩雄

発行者——小田久郎

発行所——株式会社思潮社

〒162 東京都新宿区市谷砂土原町三—十五
二六七—八一四一(編集)・八一五三(営業)・八一四二(FAX)
振替東京八—八二二

印刷所——凸版印刷株式会社

発行日——一九九〇年十月一日

ISBN 4-7837-1534-3 C0095

菅谷規矩雄

死をめぐるトリロジー

思潮社

死をめぐるトリロジー

菅谷規矩雄

思潮社

裝幀
東幸見

目次

第一部 詩篇 Zodiac Series

〔かな、名〕 10

〔サンスイ〕 15

至近 18

〔なるか、ミ〕 21

METS 84 (part 1) 36

METS 84 (part 2) 40

[2.5R 7/7] 44

Papegai/savoir 49

Non si volta chi a stella é fisso. 53

永眠のララバイ 58

[2.5R 6.5/8]キ、キ、キ、 61

第二部 死をめぐるトリロジイ

「中世のはげしさの……」 80

《言葉》と死 92

縄文的遊魂、か。——ひとつの再生譚 128

手記(80.11.10～80.12.12) 154

死をめぐるトリロジイ 213

解説(北川透)

〈詩的メーロス〉の発見——菅谷規矩雄、最後の詩と遺稿への註

234

菅谷規矩雄年譜 250

初出一覧

第一輯 俗文化 Zodiac Series

〔かな、名〕

（症状）原稿用紙のマス目に字をうめようとする、と、ペン先のインクよりも半字分だけさきに、ゆびから音がはしりでてしまう、しまいますんです、……ゲンコー、ヨーシ、ジ、ハンジ、オン、ジブン……、しのびわらいしながら、オトたち、スキップしてゆきます、ノドがムズガユイ、かゆい、ひだり手が、みぎ手を、手くびを、おさえこもうとして、カンジはかんじないカンジ、かなはカナシイかな、カミのへりにみえかくれして、オトたちのしのびわらい、モジ、字、字はわらうことができないの、かな。

モノぎらい、オトぐるい、の

ま名、まんな、かな、な

カミ、あわな、イ

ココロもち、ずらしテ、

けずれ、毛ずれる、だけ、タケ

そぎ、コソギ、オト、し

おと／＼とき／オン／が／く

るう、まで、マナ、まんな、かな

カンナ、まな、か、な、毛ずれ

物ぎらい、音狂い、だ、ダッタ

しだれ、シナダレル、

あおビカリ、ゆれ、

ユル（ゆり）ヤカ、に

イ（の）チ（が）、くい、チガッ、た

ゆび、ヒトツ、ほど、

ま名、カナ、オト（を）ノミ

たがい、ちがい、フシぶし(の)マ

まに、三ッわり、の、ヒトツ

つなぎ、ツナ・ギ、あッて

まな、かな、まんな、カノ

オト(を)だけ、ダキ

いだき／アイ／タ／かッた

おと／ズレテ(も)

名、ナ、のらず、コト／さらに／モノ

(も) いわな、イ、(デ)

ユビ、さきに、モジ(もじ)と

カミ(の)(ウラ)

の、オト、マ／さぐ／ル

ひめ、おとなし(の)、ヒメ

カミ／に／カミ／はミダレ、だれ

オト(ナシの)ヒメ

おど(オド) おどろめき

と／＼の／＼とドロ／と、タギル
たきツせ、に、に

コト／さら／シジマ、を
さかまき、サカマク、まで
よびつづけ、た

(イワ／＼に、シミイル／よ。)

——それからワカヒコのウワゴトだった(ボク、ぼく、が、
モノの名をよべば、モノは、ものおとで、こたえる、と、
信じていた。よばれずとも、モノは、みずから名のつてあ
らわれた。ナラも、クヌギも、それからケヤキも、ココ・
ニ・イル——と告げて、それぞれに風のそよぎをよびおこ
した。そのたびに、ボク、ぼくは、ひとつひとつ、音を、
つなぎとめておいた、手のひらに、ユビサキ、に。そこに、
モノの名は、なりひびく文字であった。だから、なにより
も、ボク、ぼくの声をおそれた。声が、なりひびく文字の

モノオトをかき消してしまう。いまは、ただ、コエをけし
てしまいたい。それから、ゆっくりと手をたたき、地をふ
みはじめる——きこえますか、ふるえている、土のなかの
ウツホ、ほとほと……)

「サンスイ」

オトロエル、水。

死ねない、ミズ、なおも

(ホトバシル)

火処、柱、ふとぼしら、フトシク

fountain/mountain

びす、もえる、ビス、水、びすけす――

ウ、オ、おとろえる、ホのホ、ミズ、

みず、〔あたたかい、庭〕

山水、カレサンスイ、苔ムシテ、

死ねない、水、

びす、